



視 察 研 修 等 報 告 書

令和7年9月17日

坂井市議会

議長 佐藤 寛治 殿

会 派 名 創 政 会

代表者名 田 中 哲 治

1. 日 時 令和7年8月18日（月）から8月20日（水）までの3日間

2. 視察研修先 (1) 有田市健康スポーツ公園 ビッグスマイルパーク
和歌山県有田市初島町浜1665
(2) HCI ROBO HOUSE(株式会社HCI)
大阪府泉大津市豊中町3-14-10
(3) みせるばやお
大阪府八尾市光町2-60 リノアス8F

3. 視察研修内容 (1) BIG SMILE PARK について
(2) AI・ロボットサービス利用の可能性について
(3) みせるばやおの取り組みについて

4. 参加者 田中哲治 前田嘉彦 佐藤寛治 戸板進 前川徹 山田秀樹
鍋嶋邦広 林豊夏 廣瀬陽子 9人

※公務のため、

山田秀樹議員は8月18日のみ、

鍋嶋邦広議員は8月18日、8月19日のみ参加

5. 内容詳細

◆ 1 日目

(1) BIG SMILE PARK について

有田市「BIG SMILE プロジェクト」運動型健康増進施設整備事業

1. プロジェクト概要

・BIG SMILE プロジェクト：運動型健康増進施設整備事業

目的

○スポーツを通じて市民の健康寿命を延ばす

○医療とスポーツの連携を図る

○運動型健康増進施設認定を取得する

・事業化施設

○総合運動公園整備（えみくるフィールド、えみくるドーム、えみくるランド、えみくるルート）

○室内水泳場（えみくる ARIDA）

2. 施設別の目的と課題

■ えみくるフィールド（人工芝多目的グラウンド）

・目的：サッカー・ラグビー・ホッケー等の多目的利用／少年団・学校行事・大会誘致

・課題：利用者増による駐車場不足／芝生維持管理コスト

■ えみくるドーム（屋根付き多目的広場）

・目的：全天候型で高齢者体操・ゲートボール等に活用／市民イベント・交流の場

・課題：利用頻度確保（イベント誘致）／膜屋根の長期維持管理

■ えみくるランド（大型遊具広場）

・目的：チューブスライダー・3D トランポリン等で子どもの遊び環境整備／子育て世帯支援

・課題：日陰不足による熱中症リスク／対象年齢外利用の安全管理

■ えみくるルート（健康遊具ルート）

・目的：510m・440m コース＋健康器具 27 基で健康寿命延伸／生活習慣病予防

・課題：継続利用促進のプログラム不足／健康効果測定の仕組み限定

■ えみくる ARIDA（室内水泳場）

・目的：「市民の健康増進・体力向上・癒しや交流の場」／BIG SMILE プロジェクトの核／25m プール・幼児プール・ジム・多目的室

・課題：高い維持管理コスト／高齢者・障がい者対応強化／利用促進のための継続的プログラム開発

3. 全体的な共通課題

・夏季の暑さ対策（日陰不足）

・駐車場容量・アクセス改善

- ・維持管理コストの持続可能性（指定管理者制度の効率化が課題）
- ・利用者データ収集と健康増進効果の検証体制整備

◆ 2 日目

（2）AI・ロボットサービス利用の可能性について

大阪府泉大津市に本社を置く、総合ロボットプロデュース企業、株式会社 HCI を視察

同社は、坂井市と人口減少による労働力不足など地域の課題解決を図る為、包括連携協定を締結しており、本年 3 月には、坂井市春江図書館に蔵書案内用ロボットを寄贈導入して頂いた。当日は、同社奥山社長より、これからのロボットの活用、特に AI ロボットと人との共生について、詳しいお話を聴き、併せて併設の HCI ROBO HOUSE を見学し、ロボットにより調理されたランチも試食させていただいた。

◆ 3 日目

（3）みせるばやおの取り組みについて

みせるばやおは、大阪府八尾市の近鉄八尾駅前「LINOAS（リノアス）」8 階に位置する、ものづくりの魅力を発信し、地域と企業が共に創造するイノベーション推進拠点である。ワークショップ、展示、体験プログラムなどを通じて、「ものづくりワザ」の伝承と創造性あふれる人材育成を目指している。

2018 年 8 月 8 日にオープンし、中小企業 35 社をはじめとする地域の企業が知識・技術・資源を持ち寄ることで成り立つ、「シェアリング」を基盤とした場づくりを行っている。施設では、子どもから大人までが楽しめるものづくり体験を通じて、八尾の産業と文化の魅力を体感・理解できるプログラムが提供されている。

施設の特徴

- ①地域貢献と教育支援：地域の産業・文化を次世代に引き継ぎ、「ものづくり」の意義を体験と学びで伝える。
- ②企業間の協働とイノベーション創出：中小企業が単独では持てないスペース・ヒト・リソースを共同利用し、新しい発想やコラボレーションを育む場を提供。
- ③多様な体験プログラム：ワークショップ、展示、キッズスペース、まちライブラリー、カフェスペース、一日体験など、来場者が「ものをつくる」を五感で楽しめるよう設計。

6. 所見・感想等

（田中哲治議員）

1. 有田市健康スポーツ公園 BIG SMILE PARK について（和歌山県有田市）

令和 6 年 3 月 23 日（土）に開園し、この公園は多目的の人工芝グラウンドや大型遊具施設があるほか、スポーツを通じて市民の皆さんの健康的な生活を増進する健康遊具ルートなどが整備されています。また、防災公園としての役割も担い災害対応トイレやソーラー照明等を備え、主に災害復旧の拠点として活用されています。「からだ、こころ、満面の笑み」を公園のキャッチフレーズに、競技スポーツや日々の健康づく

りのための施設です。

方針としては、老若男女問わずあらゆる世代が健康的な生活を送り、スポーツを通じたコミュニティが生まれ、誰もがスポーツに親しめる機会をつくりだします。

なお、建設にあたって、工程管理や工事現場調整は「都市整備課」が行い、事業運営所管は教育委員会管轄（指定管理と地元業者）であり、所管との連携を密にして運営を行っています。本市においても、全天候型子どもの遊び場整備事業にあたっては、建設等の所管は教育委員会（生涯学習スポーツ課）であり、管理運営は公募型プロポーザルで実施しますが、親子或いは家族が喜んで楽しく遊べる施設を期待するところです。

※ 有田市水泳場の指定管理料は2千万円/年、パークは地元業者が運営で2.4千万円/年。

※ 水泳場の利用者状況は、令和5年度の1日当たり平均は532人で、11月～12月は「みかん」の収穫期で減っている。



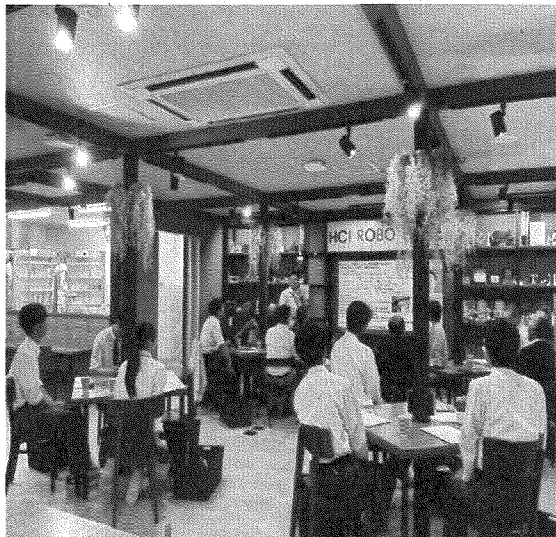
2. AI・ロボットサービス利用の可能性について（大阪府泉大津市）

（株）HCI は2002年（平成14年）に創立し、お客様の期待に応える独自の製品開発を行い、2004年には髪の毛よりも細いケーブルを撚る撚線機で携帯電話の普及に貢献してきたとのことです。

また、AI 技術による世界初の「ロボット社員食堂システム」を導入し、ロボットが調理、配膳ロボットが障害物を自動で避けながら、指定されたテーブルまで料理を運ぶシステムで自動化、省人化を実現しています。

（株）HCI のパーソナルロボットについて、①1人に1台確保 ②人手不足解消 ③儲かる（儲かるシステム構築をする） ④社員が喜ぶ。新入社員確保 ⑤幸せに、やりたいことを継続してできることなどがあります。

また、技術力と人間力で世界中を笑顔溢れる社会に導き、世界を平和にするという「夢」に向かっていくとのことです。

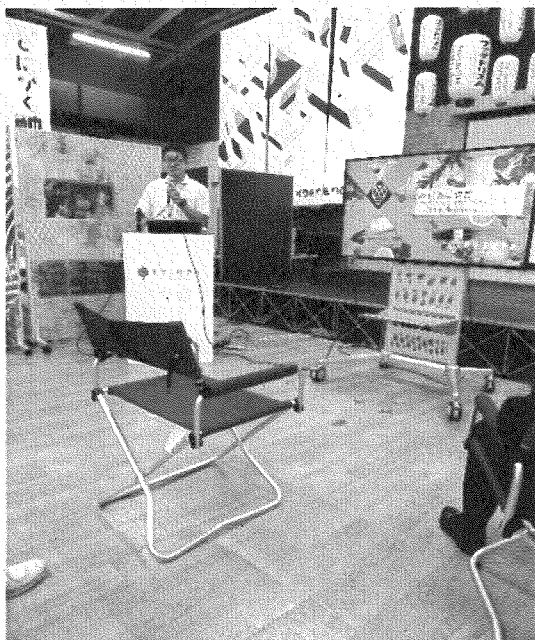


3. 「みせるばやお」の取り組みについて（大阪府八尾市）

2018年（平成30年）に近鉄八尾駅前の商業施設（前は西武百貨店）に LINOAS（リノアス）をオープンしました。ものづくりのワザを魅せる場として、ものづくり体験ワークショップを通じて「誰もが、いつでも、気軽に、クリエイティブ」を感じることができる空間であります。

また、「みせるばやお」は変化が生まれる場所として、①場の共有をつくる ②知見の共有（伝える） ③想いの熱量の共有を持ち帰るなどの場所として活動をしています。

現在、135の会員がおり、月に一度全体会議をリモートで開催し、「自慢ができ、誇りのもてるまち」にしていこうとのことです。



(前田嘉彦議員)

●BIG SMILE PARKについて：和歌山県有田市

市民プールの3カ所が老朽化等の理由により廃止。市民プールも1カ所だけの運営となり、早急な運動施設の整備が市民ニーズとしてあったことより、有田市が推進する「BIG SMILEプロジェクト」の一環として令和6年3月オープンしています。また、総事業費は約27.6億円でそのうち約20.5億円が補助金とのことでした。

このプロジェクト名には、「市民がスポーツや健康づくりを通じて、笑顔あふれる人生を送ってほしい」という願いが込められており、えみくるフィールド、えみくるドーム、えみくるルート、えみくるランドと、子どもから高齢者まであらゆる世代が利用できる運動型健康増進総合施設として整備されておりました。

防災公園としての役割としては、災害対応トイレ、ソーラー証明、防災パーゴラ、かまどベンチを有していますが、津波による浸水や、液状化の危険度が高い場所でもあるため、震災直後は避難者の積極的な受け入れは行わず、施設の状況を確認し、復旧活動拠点地として活用するとの事でした。

令和6年度の利用者数は約11万人で、施設の大きさの割には周辺道路の幅員が狭く、駐車場も100台程度しかなく、これらのことが利用促進における今後の課題と考えられました。

●AI・ロボットサービス利用の可能性について：HCI ROBO HOUSE(株式会社HCI)

(株)HCIの2002年の設立当初は、ケーブルやワイヤー、チューブ、シートなどの製造装置の製作・販売で、特に髪の毛よりも細い極細線を製造する「撚線機(よりせんき)」を開発し、特許を取得。この技術は、当時の携帯電話の普及に貢献するなど、事業の基礎を築いたとのことでした。

その後、ケーブル製造で培った技術を活かし、ロボットシステムやAIシステムへと事業を拡大し、現在の主力事業であるロボットシステムインテグレータ(SIer)としての事業は、設立から数年後に開始されているとのことでした。

坂井市でも地域の課題解決を図るための包括連携協定を締結し、福井県初の蔵書案内ロボットを春江図書館に導入しているところです。

今回は(株)HCIの社員食堂兼ショールーム「HCI ROBO HOUSE」で会社概要やロボット技術について説明を受け、「ロボット社員食堂システム」で実際に稼働している状況を見聞し、調理されたカレーライスを昼食として食べる体験も行ってきました。このシステムは、飲食業界が抱える人手不足や、調理・サービスの品質を均一に保つといった課題を解決するソリューションとして開発されています。

今後、さらなる人手不足の状況を考えていきますと、AI・ロボットサービスの利活用は重要であり、行政サービス分野における活用も検討していくことが求められていると感じられました。

●「みせるばやお」の取り組みについて

大阪府八尾市は 11,940 事業所（全国 94 位）、従業員数 110,440 人（全国 110 位）であり、約 3,000 社の「製造業」がある「ものづくりのまち」となっています。

深刻な地域課題として考えていることは、1991 年に 5,033 社あった「ものづくり企業」が 2016 年には 3,075 社に減少してきていることであり、危機感を感じているとのことでした。そこで、市内の製造業の実態調査を行い中小企業の課題を分析し、どの様に変わるべきかを検討してきています。

「みせるばやお」は、近鉄大阪線 近鉄八尾駅から徒歩 4 分の距離にあり、LINOAS（リノアス）という商業施設の 8 階に位置し、駅から直結に近い形でアクセスでき場所にあり、地元の「ものづくり企業」が集まって設立された施設で、「見せる場」と「魅せる場」という 2 つの意味が込められているそうです。

主な取り組みは、①ものづくり体験と PR、②企業間の連携・共創、③人材育成・交流などで、地域経済の活性化や、ものづくりの技術を次世代に繋いでいくことを目指しており、子どもたちが参加できるものづくりのイベントも開催しているとのことでした。

坂井市でも令和 7 年 10 月 1 日に春江駅前に「坂井市イノベーション拠点センター」を開設し、坂井市が推進する「新産業共創事業」の拠点となり、主な目的は①地元企業とスタートアップの連携、②人材育成となっています。

「みせるばやお」を参考にして地方創生や地域経済の活性化、若者の雇用創出などや、地域の子どもたちを巻き込んだイベントにより、多くの人に利活用される拠点づくりとしていく必要性を感じました。

（佐藤寛治議員）

有田市ビックスマイルパーク

ビックスマイルパークは、誰もがスポーツに親しめる機会のある場として子どもから高齢者までのあらゆる世代が健康的な生活を送れる外、インクルーシブ遊具も充実している。そして、何よりもスポーツの楽しさや喜びを味わい、人生を豊かに充実させる施設として建設されている。

また、災害時の活用は災害直後からではなく、復旧活動拠点として活用すること。

特に、指定管理者にはミズノスポーツサービスを選定しており、イベントやスポーツ教室などは指定管理者の知見に基づき実施しており、民間施設と思えるほど素晴らしい施設で、指定管理の在り方を含め大いに参考になり、本市に於いてもこの様に事業実施にあたっては、色々な角度から検討する必要性を強く感じた。

株式会社 H C I

H C I は総合ロボットプロデュース企業として、最適なロボットを提案する企業であり、本市の春江図書館に配備しているロボットも提供している。

今後はロボットと人が共生していく社会を目指しており、A I システムを活用

したロボットはこれからの福祉分野や他の行政分野に於いても必要性が生まれると共に、人口減少社会に於いてもこの様なロボットが必要と感じた。

八尾市 みせるばやお

「みせるばやお」は八尾市内の企業・大学・金融機関・市が連携したコンソーシアムとして設立し、八尾市の企業のものづくりの技術力などを魅せる場として運営されているもので、地元の商工業者の熱意が強く感じられ、単にイベント的なものではなく、「みせるばやお」自体が企業として運営されており、ものづくりの楽しさと地域の企業を学ぶ機会の創出の場としている。この様な取り組みは見習う必要があると強く感じた。

(戸板進議員)

【和歌山県有田市】

●有田市『BIGSMILE プロジェクト（運動型健康増進施設整備事業）』

医療×スポーツの連携を確立するため、健康寿命の延伸などの課題について、スポーツを通じてこれらの問題を解決することを目的とし、ジムやスタジオを併設した屋内水泳場及び総合運動公園の整備を推進。

指定管理者を先行選定し設計段階から管理側のノウハウやアイデアを吸い上げ、市保健事業での活用についても検討。

屋内水泳場（えみくる ARIDA 総事業費 16 億円）は、ミズノスポーツサービス株式会社が指定管理者で、運動型健康増進施設として厚生労働大臣の認定を受け、子どもの水泳教室を初め 27 種スタジオプログラムを実施するほか、医師の「運動処方せん」に基づいた運動プログラムを実施、また、市保健事業や高齢介護事業と連携しながら市民の心と体の健康づくりに貢献している。

BIGSMILEPARK（事業費 27.6 億円）は管理のために設立した合同会社が指定管理者となり、えみくるフィールド（多目的グラウンド）、えみくるドーム（屋根付き多目的ひろば）、えみくるランド（遊具ひろば）、えみくるルート（健康遊具ルート）からなる公園で、子供から大人まで楽しめる公園となっている。

坂井市においても、丸岡 B&G 海洋センターを運動型健康増進施設として厚生労働大臣の認定を受け、医師の「運動処方せん」に基づいた運動プログラムを実施、また、市保健事業や高齢介護事業と連携しながら市民の心と体の健康づくりに貢献できないか。

【大阪府泉大津市】

●HCI ROBO HOUSE

坂井市は令和 7 年 3 月に、株式会社 HCI と地方創生に関する包括連携協定を締結した会社で、4 月には春江図書館に自走式の蔵書案内ロボットが寄贈されている。

今回は、株式会社 HCI のロボットと AI 技術による世界初の「ロボット社員食堂システム」を視察。ロボットが人の手を借りず、レトルト食品を調理する現場を見たが、ロボットの進化には驚くものを感じた。

【大阪府八尾市】

●みせるばやお

「みせるばやお」は、2018年に八尾駅前、リノアス8Fにオープンした施設である。

八尾市には高度な製造技術を持つ中小企業が集結しているが、事業継承や下請けからの脱却といった課題に直面しており、人材育成が喫緊の課題となっていた。八尾市の呼びかけにより、地域の中小企業、金融機関、大学が連携し、株式会社みせるばやおを設立。

設立目的は、八尾市に集まる中小製造業が抱える「人材育成の課題」を解決し、地域ものづくり企業間の連携を促進しイノベーションを生み出すため、企業とエンドユーザー（特に子供たち）の交流の場を提供し、ものづくりの楽しさや、技術を伝え、未来の技術者育成と地域活性化につなげることを目指すとされている。

大阪府に製造業が14,593社ある中で、八尾市に3,000社が集結していることからいかに多いかがうかがえる。しかし、企業の減少が深刻な地域課題となる中、なにもないまち、キライなまち、なんとかして、から変化が生まれる場所として、自慢できるまち、誇りに思えるまち、なんとかしようとの思いから、変化が生まれる場所として、みせるばやおが誕生している。

事業内容としては、1 経営者・社員育成 2 起業家育成 3 若者にものづくりの魅力を伝える 4 こどもがものづくりの楽しさを体験する 5 地域活性化魅力発信を巡回しながら事業を進めているようであった。特に、子供向けのワークショップでは、会員企業がそれぞれの得意分野を活かして、楽しみながらものづくりを学べる企画をたくさん考案し、季節や行事に応じて定期的にイベントを開催し、リピーターも楽しめるよう工夫しているとのことであった。

以前高校生と議会との意見交換会が開催されたときに、大学に進学しUターンしたくないの意見の中に、戻っても働く場所がないとの意見があったが、市内にも大いに魅力ある企業が多くあると思う。学生たちに市内企業の説明会、企業見学会などのはどのようなになっているのだろうか。また、小学校では市内の社会見学があると思うが、公共施設ではなく、市内企業見学も子供たちにとって大いに市を誇りに思うことになるのではないだろうか。

(前川徹議員)

(1) BIG SMILE PARK について

有田市健康スポーツ公園「BIG SMILE PARK」は、日本サッカー協会公認の人工芝ピッチ1面とLED投光器、最大340名収容（屋根付き）の観覧席を備えた多目的グラウンド、人工芝フットサルコート1面が入るドーム、遊具広場や健康遊具、周回のランニングコースがあり、子供、若者、高齢者がスポーツと健康づくりを楽しむことができる公園である。さらに、防災機能を備える公園でもあった。

このスポーツ公園内に令和2年、ジムとプールが併設された「えみくる ARIDA(有田市民水泳場)」がオープンし、管理（指定管理者）は地元「ありだスポーツコミュニテ

「イ創造パートナーズ 代表企業ミズノスポーツサービス株式会社」が行うことになった。スポーツ専門の企業がかかわることで、その機能が十二分に発揮されているように感じた。「運動型健康増進施設」として、厚生労働大臣の認定を受け、設備や指導員の質についても高い基準を確保しながら実施するプログラムは大変魅力的で、市保健事業や高齢介護事業と連携した運動教室も大変好評を得ていた。

坂井市においても、フィットネスセンターを併設する丸岡 B&G プールなど、指定管理施設の機能およびサービスの向上を図るうえで大変参考になる事例であった。また健康スポーツ公園として、体育施設の集約も今後考える必要があると感じた。

(2) AI・ロボットサービス利用の可能性について

国内のロボット研究開発の最先端を歩む株式会社 HCI の奥山社長（福井大学卒）よりロボット・AI・IoT システムの現在と将来性について話を聞いた。産業用ロボットやサービスロボットの進化は目まぐるしく、医療機器や電気・電子部品などでの貢献も大きく、私たちの生活の中のあらゆる分野に浸透していることが伺えた。同社からは坂井市の春江図書館に、「検索した本が配置されている本棚まで利用者を案内するロボット」が県内初として導入されている。

泉大津市にある HCI ROBO HOUSE は、ロボットと AI による世界初のロボットカフェであり展示場でもある。調理するロボットは人間と同じような力加減を再現し、カップに食材を盛り付けていた。子犬型ロボットも愛くるしく、AI により学習しながら飼い主とのコミュニケーションを図っていくものであった。便利で効率的でし密さと正確さが担保されるロボット。そこに AI の学習機能が備わりロボット自身が成長していく姿を想像すると、まさに人類の歴史の転換期を迎えていることが実感できた。

(3) みせるばやおの取り組みについて

㈱みせるばやおは八尾市内の中小企業等が集結して設立された。行政機関と強い連携を構築しながら、地域のものづくり企業に対して人材育成プラットフォームを提供しているものである。子供たちにもものづくりの楽しさを伝える活動からスタートし、未来志向の人材育成をめざした企業家支援、大学のゼミやインターンシップ受入などを通じて、ものづくりの魅力を発信している。

異なる仕事をする人々が集まり、「みせるばやお」のスペースを共同で利用し、お互いにコミュニケーションを取り、新たなビジネスチャンスの機会を創るこの空間は、若者や後継者のチャレンジ精神を高め新しい発想を生み出していくのだと感じた。坂井市においても中小零細企業が活躍、発展していける場として、みせるばやおの取り組みは参考になるものと思う。坂井市が支援する商工会が今後取り組むべき事業としても有効なものだと感じた。

(山田秀樹議員)

有田市健康スポーツ公園 ビッグスマイルパーク 所感

行政経営の施設であるが故、民間との競り合いによる弊害が懸念されると感じた。

質問したところ、民間によるプール整備事業が整備されているのは市内でここだけで、

プールに加えサウナの充実を図った結果、若い世代から、手頃な入場料で スポーツ施設と充実したサウナを利用できることは、非常に助かる、という声が多いとのこと。坂井市では、シャワーや小さな風呂のみであることが多い。皆で入れる大きな湯舟、充実のサウナ併設が居場所づくりにもなっていると感じた。若い世代をはじめ、様々な人が集い、利用しやすい魅力的なスポーツ施設整備は地元の魅力づくりや市民の健康増進に意義のある公費投入であると感じた。

HCI ROBO HOUSE 所感

別公務のため欠席

みせるばやお 所感

別公務のため欠席

(鍋嶋邦広議員)

有田市 BIGSMILE プロジェクト (運動型健康増進施設整備事業)

有田市ビッグスマイルパークは、医療×スポーツの連携を確立するため、健康寿命の延伸などの課題について、スポーツを通じてこれらの問題を解決することを目的とし、ジムやスタジオを併設した屋内水泳場及び総合運動公園として整備された。

また、ビッグスマイルパークは、誰もがスポーツに親しめる機会のある場として、子どもから高齢者までのあらゆる世代が健康的な生活を送れるほか、インクルーシブ遊具も充実している。そして、何よりもスポーツの楽しさや喜びを味わい、人生を豊かに充実させる施設として建設されている。

また、災害時の活用も視野に入っていて、災害直後からではなく、復旧活動拠点として活用するといった考え方は、今後坂井市でも検討が必要な防災公園の検討にも、大いに参考になった。

指定管理者には、ミズノスポーツサービスを選定しており、イベントやスポーツ教室などは指定管理者の知見に基づき実施しており、民間施設と思えるほど素晴らしい施設で、指定管理の在り方を含め大いに参考になり、本市に於いてもこの様に事業実施にあたっては、色々な角度から検討する必要性を強く感じた。

株式会社HCI

同社は、坂井市と人口減少による労働力不足など地域の課題解決を図る為、包括連携協定を締結しており、本年 3 月には、坂井市春江図書館に蔵書案内用ロボットを寄贈。

また、総合ロボットプロデュース企業として、最適なロボットを提案する企業であり、大阪万博のパビリオンにも、飲食関連のロボットを展示中で、今後はロボットと人が共生していく社会を目指しており、AI システムを活用したロボットはこれからの福祉分野や他の行政分野に於いても必要性が生まれると共に、これからの人口

減少社会に於いて、この様なロボットの重要性を強く感じた視察であった。

(廣瀬陽子議員)

◆和歌山県有田市 BIG SMILE プロジェクト

BIG SMILE プロジェクトとして、「スポーツを通じた健康増進や生きがいづくりが行える場所、次世代を担う人材を育成できる場所を創出する。また、だれもが身近にスポーツに親しむことができる場所とすることでスポーツを通じたコミュニティの増進を図る」をコンセプトにしている。

えみくる ARIDA(有田市民水泳場)と BIG SMILE PARK が隣接しており、子どもの遊具からスポーツ施設まで、幅広い年齢層で利用を想定できる施設になっていた。

えみくる ARIDA では、子どもの水泳教室をはじめ 27 のスタジオプログラムが実施されており、さらに医師の運動処方箋に基づいたプログラムも実施していることから、市民の健康づくりに貢献していた。

本市でも、健康づくりのために気軽に行ける場所があれば、普段スポーツをしない人も、運動できる機会をつくることができるのではないかと感じた。

◆大阪府泉大津市 HCI ROBO HOUSE

AI ロボット技術は、至るところで活用されており、新しい可能性が広がっていることがわかった。

全ての仕事が機械にできるわけではなく、人が担うべき部分も多いと感じたが、いろいろな分野で担い手不足が言われている。工場など機械化することで、人が担っていった重労働や危険な仕事を回避するだけでなく、より正確な仕事をこなすこともできる。企業としては導入費用がネックになり、機械化が進みにくい背景はあると思われるが、将来を考えれば導入することのメリットが大きいと考える。市としても導入補助についても調査研究が必要ではないかと感じた。

◆大阪府八尾市 みせるばやお

八尾市は昔から製造業を営む中小企業が多く、日本でも有数のものづくりまちとして知られている。1990年代前半から、ものづくり企業が減少していき、そこで働く人たちも自分たちの仕事にネガティブなイメージを持っていた。

中小企業単独では、人材育成やブランド製品力、企画力の不足など課題が多く、自分たちだけで新しいことをスタートしたり、チャレンジしたりするのは難しい。しかし「みせるばやお」があることで、会員企業は、企業どおしのネットワークを利用して新しい製品を生み出したり、ものづくり体験ができることは魅力であると感じた。また1つの企業だけでは新入社員の人数は限られ、同期がいらないといった課題を、地域全体で同期をつくるという発想に変え、新社員ランチ会など、若手の離職率を減らし長く働いてもらうための取り組みは坂井市でも実施できるのではないかと感じた。

(林豊夏議員)

「BIG SMILE プロジェクト」運動型健康増進施設整備事業

有田市の「BIG SMILE プロジェクト」は、健康増進・子育て支援・交流人口拡大・防災機能を兼ね備えた先進的な拠点整備でした。特に全天候型のえみくるドームや大型遊具を備えたえみくるランドは、世代を超えて利用できる設計が印象的でした。

一方で、健康対策や駐車場の不足、維持管理コストの高さといった課題は、坂井市でも将来直面し得ると感じます。坂井市で進む全天候型遊び場整備においても、施設そのものだけでなく、運営プログラムや利用促進の仕組みを組み合わせこそ、市民にとって持続的に価値のある場となると学びました。

HCI

大阪にある HCI は、幅広い分野のロボット開発やその携わる人材育成を手がける企業であり、坂井市にもロボットを寄付いただいています。今回の視察では、開発現場や活用事例を直接拝見し、単なる「機械」としてではなく、人の生活や仕事を支える実用的なツールとしての可能性を強く感じました。

特に、高齢化が進む中での介護支援や、人手不足が深刻な分野での活用は大きな可能性を持っています。また、子どもたちにとっては、ロボットを身近に体験することが科学技術やものづくりへの関心を高めるきっかけにもなります。

今回の視察を通じて、ロボットを色々な分野の現場で具体的に活かす取り組みを進めることの重要性を改めて実感しました。HCI の先進的な取り組みを参考に、坂井市でも地域の課題解決や人材育成につながる利活用の可能性を探っていきたいです。

みせるばやお

「みせるばやお」は、地域の企業や産業をわかりやすく見せ、子どもから大人まで幅広い世代がものづくりや産業の魅力を体験できる場として整備されていました。産業そのものを「伝える」「魅せる」仕組みを持っていることが印象的でした。

坂井市にも一次産業や、製造業など魅力的な産業が数多く存在します。しかし、その価値や魅力が市内外の人に十分に伝わっていないのが現状です。今回の取り組みを参考に、坂井市においても「産業を見せる場」「産業を体験できる仕組み」を整えていくことで、地域の誇りを共有し、次世代の人材育成や企業のブランド力向上にもつながるのではないかと感じました。

7. 添付書類

◆ 1 日目

(1) BIG SMILE PARK について



◆ 2 日目

(2) AI・ロボットサービス利用の可能性について



◆3日目

(3) みせるばやおの取り組みについて

